

20年前、何してた？
2004年の出来事

実行委員会では式典当日に向けてInstagramで情報発信しました。そのなかでも反響の大きかった投稿「20年前の振り返り」をご紹介します！



実行委員会
Instagram

5千円札に樋口一葉、千円札に野口英世が描かれた新紙幣が発行される

アテネ五輪で日本人選手が当時史上最多となる37個のメダルを獲得

新潟中越地震が発生。当時の観測史上最大となる震度7を記録

新語流行語大賞
→「チョー気持ちいい」
オリコンランキング1位
→平井堅「瞳をとじて」

2024年

人生の節目を祝う

二十歳の集い

晴れ舞台

1/7(日)
ANCアリーナ



今年のテーマは「夢」こんなを企画をしました！

記者発表会で決意表明

「地域の一員として認められ、希望となる存在になりたい」という思いで準備してきた今回の式典。その思いや取り組みを発信するため、実行委員会による記者発表会を初めて行いました。その様子は新聞各紙やケーブルテレビ番組でとりあげられました。



初の試み！記念冊子を発行

これまではふくさやフォトフレームといったモノを贈っていた市からの記念品。今回は一生の思い出として残るものを作りたいという思いから「記念冊子」を作ることにしました。式典当日の写真を中心に、恩師からのメッセージ、市長インタビューなどを収めたフルカラーで、後日参加者に届けられます。

今日が節目地域の希望に
1月7日に二十歳の集いが開かれ、二十歳を迎えた698人が参加しました。会場では旧友との再会を喜ぶ笑顔があふれていました。
式典では実行委員長古畑さんが参加者を代表して挨拶。「20年間でさまざまな人と出会い、体験し、学んできました。これからはそれらを活かし、社会に貢献し恩返しする立場になっていく。自分の夢を追うと同時に、地域の一員として認められ、安曇野市の未来を担う「希望という名の夢」になれるよう、共に精進していきたい」と述べ、今回のテーマである「夢」への思いを力強く語りました。

自分たちで盛り上げる式典

式典は毎回実行委員会の皆さんが運営しています。これまでは元生徒会役員が担ってききましたが、今回は申込制で、希望者11人が集結しました。8月から会議を重ね、テーマや交流企画、記念品を検討。さらに全体会議と並行して企画・制作・広報の3チームにわかれ、オンラインも活用しながら式典当日に向け準備を進めてきました。
当日、企画を楽しむ参加者の姿を見て「盛り上げることができて良かった。いい式典にできた」と安堵の表情を浮かべていました。

令和6年二十歳の集い 実行委員会メンバー



(後列左から)木南彩さん、二木望玖さん、柴崎彩輝さん、小林まりさん、大原仁希さん、長岩小春さん、長崎有莉紗さん、(前列左から)三好勇輝さん、大澤智大さん、石川成亜さん、古畑龍利さん

過去・現在・未来の夢を形に

参加者交流企画として、夢をテーマにした3つのアトラクションを実施。中学時代の写真を使った映像を流し当時の「夢」を思い出す『あの頃フォトムービー』、会場で撮った写真に自分の夢を描く『チェキ絵馬』、1年後の自分宛てに書いて届ける『決意の手紙』で、それぞれの夢を新たにしていました。

